

日露戦争参戦記（鴨緑江偵察）

元新発田駐屯地援護室勤務 佐藤 和敏

歩兵第16聯隊（新発田聯隊）が、先の日露戦争（明治37・38年戦役）に第1軍第2師団下で初戦となった鴨緑江徒河作戦に於いて、第1大隊の前進命令と第3中隊が実施した敵状及び徒渉場の偵察斥候帰来報告の紙片が白壁兵舎広報史料館に展示されています。

この紙片は白壁兵舎の移築解体前、資料の整理をしている時に偶然発見したもので、時代の異なる雑資料と混在しておりました。

文中に記載されている将校・下士官・兵卒の名前が当時の大隊編成表に載っており、19人の名前が確認され、紙片の内容を見るとまさにこの時代に書き記したものであると確信しました。それでは貴重な資料の一端を紹介します。

先ずは、明治37年4月13日午後11時30分、第1大隊の前進命令下達です。

- 一 聯隊は明日納〇〇（判読不能）に向かい前進す
- 二 大隊は明日 前帽峰付近に向かい前進せんとす
- 三 設営は午前六時三十分大隊本部前に集合し第一中隊山井中尉（第一中隊第一小隊長山井利男中尉）の指揮を受けるべし
- 四 各中隊は午前七時五十分 大隊本部在營地に集合すべし
- 五 大小行李は午前八時 其在營地を出発すべし
- 六 余は午前七時五十分集合地にあり

大隊長 仁平少佐

注意

- 一 軍旗衛兵として第三中隊より将校一 卒なる一分隊を午前七時四十分聯隊本部に出すべし
- 二 設営司令は午前六時大隊本部に来るべし

次に、鴨緑江渡河前の偵察斥候報告の四点を紹介します。

一点目は、4月11日午後5時10分 第3中隊第2小隊長（横山喜三太少尉）から第3中隊長（前哨第3中隊長矢野喜代馬大尉）への敵状報告です。

- 一 敵に付いて保する所なし
- 二 第二師団騎兵第二聯隊第二中隊 土田伍長の言によれば昨廿日 我が間諜の一人九連城より帰りたる者の報告を本日騎兵聯隊長より一般兵卒に達せられたる言左の如し
九連城には砲九門あり 沙河鎮（安東縣）砲約四十門あり 虎山という中洲には砲貳門あり この貳門は義洲より光輝をはなつためを見ることを得

- 騎兵は四千 歩兵は約一個師団位左岸にあり 砲の口径大なるもの八柵
- 三 土田騎兵伍長の言によれば義洲より九連城まで距離六千メートル 雲火洞より九連城まで九千メートル 騎兵第二中隊には上等兵貳名、卒四名の戦死 第一中隊には伍長一名下士哨となりいる時戦死
- 四 敵は一般給食悪く衣服は破れ靴には底なき者あり 靴下の替は韓人の白布を巻く者ありと 又九連城にある敵兵の食物は欠乏を来れし蕎麦の一握り位を湯に溶かし食物になすという（食物の件は間諜の言）

二点目は4月18日 梶野直太軍曹（第3中隊本部斥候長）の報告です。

任務

- 一 古城麻田洞及び乙村搜索し得て鴨緑江西岸地形徒渉場有無及び右岸に架橋材料集中地点の有無を搜索するにあり

報告

- 一 敵において異常なし
二 徒渉場なし 西岸は砂地高さ三メートル以上の断崖にしてもっとも弱し
三 架橋材料集中地点なし

備考

図上河中に点線を引きたる地点は若干修繕せば徒渉することを得 河の左岸にして古城麻田洞を上流約二百メートル地点に大板及び角材等々あるを見たり
斥候長 梶野直太 矢野大尉殿 斥候兵員長以下七名（以下名前略）

三点目の斥候報告は長谷川寅太郎伍長（第3中隊第2小隊）の紙片です。

報告

四月廿七日 伍長 長谷川寅太郎

- 一 わが斥候古城麻田洞を距てる約二百メートル波状地に至りしや 東県方向に車輪の音の如きを聞く 同方向に音楽を聴く
二 古城麻田洞に敵兵なし
三 仝里（乙村と思われる）土人の言によれば先刻四時頃 露人幾十人乗船し在りしを見んと後 上流に去りし 伝う
四 仝里 河端に至りし 柴山特務曹長殿に合いし連絡を取る
五 古城麻田里 約中央前方に一ヶ所 仝里村端森林前方に一ヶ所それより約二百メートル上流に一ヶ所渡船場あり
六 仝（同）渡船場各所に長さ約二間 經（徑）一尺位の木材二十本余り川岸に在りしを見る

四点目は須貝英一郎伍長（第3中隊第3小隊）の報告です。

- 一 敵については異常なし

- 二 古城麻田洞に至る間は 多くは畑地及び乾田にて部隊通行し得るべく先城麻田洞に至る間小さき沼地十数ありて部隊行進不便なり
- 三 古城麻田洞に至りし時 特務曹長（三中隊本部柴山平五郎特務曹長）より中隊長に左の報告をなすべきことを命ぜられたり

- 一 敵につきて異常なし
- 二 渡船場数個ありて日本形の船二艇あり
- 三 敵は角材及び小船を 土中を掘りこれを埋めんとするの形跡あり

以上

明治三十七年四月二十八日午後二時

斥候長伍長須貝英一郎

前哨第三中隊長殿

以上、紙片5点の紹介でした。尚この紙片は白壁兵舎広報史料館2階の日露戦争コーナーに展示されています。実在した戦場と符合する数々の資料を、是非ご来館され確かめて頂きたいと思います。

聯隊はこの後、5月1日を機に攻撃を開始し「全師団の真っ先かけて戦場に臨み、九連城にその英姿をひるがえし、向かう所常に北越三千の健児をさしまねき強虜を破り、以って国家保護の重責を尽くし新発田聯隊の名をほしいままにせしめた」とある。

(下りの「」は歩兵第16聯隊史より)